

特集 古地図で歩く

花しょうぶ通り、七曲がり

「神が田園を創り、人が都市を創った」(God made the country, and man made the town.) という詩があります。都市は、人によって創られ、発展し、衰退するもので、その時代の人間の特質一価値観と文化一を強く反映します。厳密に言えば、田園も自然と人との相互作用で生まれる景観であり、都市も田園も、どこにでもあつたが、どこも同じではない。どこにも固有の歴史があり、その痕跡をたどることができる。特に都市には、そういう「おもしろさ」が隠れています。

彦根は、17世紀当初にゼロから計画され建設された近世城下町で、当時の人々の考えや町の発展とその限界を現代に伝えてくれる「たくさんの痕跡」を残した特別な町です。

「まち遺産ネットひこね」代表の尾田英昭さんや鈴木達也さん達は、その彦根の「おもしろさ」に気づき、多くの人と「楽しみ」を共有したいと、市民と一緒に町なかを探索しマップをつくってこられました。これまでに「鍾道さんマップ」、「外堀マップ」を発行、平成25年度には「花しょうぶ通りマップ」と「七曲がりマップ」を完成させ、2月23日に花しょうぶ通りで、3月16日に七曲がりでもち歩きイベントを実施されました。



花しょうぶ通りマップで歩く

花しょうぶ通りマップ(A3判二つ折り)は、見開きに天保7年(1836年)彦根藩の普請奉行によって作成された御城下惣絵図の該当部分をのせ、その上に新しい道を黄緑色で書き加えています。19の見どころを番号で絵図上に示すとともに、写真と文で解説しています。このほかに、本うだつ、袖壁、袖壁うだつ、連子格子、虫籠窓などの町家デザインも見どころとして紹介しています。

マップは、彦根市銀座町の久座の辻から、川原町、上川原町、安清町、さらに善利新町から猿尾のJR踏切付近までを対象としています。この通りは、城下町の町割りや古民家がよく残っていて、重要伝統的建造物群保存地区の候補となっています。



今回のまち歩きは、濱崎一志・彦根景観フォーラム理事長(滋賀県立大学教授)の解説で35名の参加がありました。

注目は、昨年、登録有形文化財になった旧石橋家住宅です。江戸から明治にかけて建てられた三軒続きの大規模な町家で、「表屋造」という彦根では珍しい商家形式を持っています。

また、上組足軽組屋敷は、彦根藩の足軽の住居が現地に残っていて、これまで知られていなかった貴重な建物

です。さらに、ひこね街の駅・逡信舎と宇水理髪店は、昭和9年と11年の建築で、ともに瓦葺き切妻造の和風建築ですが、表側を西洋建築風の外観にして装飾を付けていて、昭和初期の町家の意匠や技法



がよくわかります。また、古地図と比較すると、水路や細い路地がかなり残っているがわかりませんが、下屋敷跡などの大規模な敷地は分割され新しい道ができていました。さらに、広い道路の湯川通りは、元は川であり、今も道路の下を川が流れていることもわかりました。

七曲がりマップで歩く



七曲がりマップ（A3版二つ折り）は、花しょうぶ通りマップと同じく御城下惣絵図をもとに、仏壇街の町家や神社仏閣、江戸時代からの水路、うだつや防火壁の役割を果たした土戸の痕跡などをもつ商家など17のスポットを写真付きで解説してい

ます。御城下惣絵図に「正保元申年新町家建ち出来」との書き込みがあり、七曲がり全体を新町通り、新町筋と呼んでいたこと、彦根口駅が開業当時は新町駅であったことなどが紹介されています。

七曲がりとは、彦根市河原の芹橋から近江鉄道彦根口駅までの全長約1.2kmの街道で、中仙道高宮宿から彦根城下町に入る入口にあたります。道がシグザグに折れ曲がっていることから七曲がりと呼ばれ、国指定伝統工芸品の彦根仏壇を製造販売する店舗、工房が多くあります。

3月16日（日）のまち歩きでは、彦根市橋向町の蛭子神社に32人が集合し、鈴木さんの案内で彦根口駅まで

歩きました。後三条川は、江戸時代に芹川堤防に樋を通して後三条村に水を引き入れた人工水路で、御城下惣絵図では百々三之進の屋敷が水路に囲まれていることが読み取れ、現在もその通りの水路を確認することができました。



Takumi Apartmentは、1836年の建築で、元は綿や仏具を扱う商家でした。現在は、住宅、賃貸アパート、ワインショップ、カフェに改装中であり、細い連子格子が美しいアクセントとなっています。井上仏壇店では、店主の好意で彦根仏壇の工房を見学させていただきました。残念ながら現在地から移転されるそうです。

村岸家は、江戸後期の町家で、屋根に本ウダツがのり、一階正面に土戸とそれをはめる溝が残されています。周辺は、古い町家が連続して、重要伝統的建造物群保存地区にしているような景観でした。その中に、1831年創業の吉田醤油店があり、建物は大正時代の建築で、二段重ねの袖壁ウダツが重厚な外観を演出していました。

近くに、ひこね街の駅寺子屋力石の初代駅長のお宅があり、その前で話していると参加者から2月に亡くなったことを教えていただきました。古い街並みを守ろうとされていた初代駅長に心から感謝申し上げますとともに、ご冥福を御祈り申し上げます。

（堀部栄次）

